

国語国文学会だより



No.14

1995. 11

国文学科卒業生の会

国語国文学会

秋季大会・公開講演会のご案内

平成七年度の秋季大会・公開講演会を、左記のように開催致します。

ご多忙のこととは存じますが、お誘い合わせのうえご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。なお、会員以外の方々のご来場も歓迎いたします。

日時・平成七年十一月二十五日(土)

場所・午前) 泉山館二階 第三会議室・(午後) 香雪館四階 四〇一号教室

【午前の部】*研究発表会 泉山館二階 第三会議室

(午前十時~十二時十分)

(1)紙面の中の『三四郎』—語ることを読むことのあいだ

本学博士課程後期一年次 小長井晃子氏

(2)道城寺の変容

新制十五回 清水 玲子氏

(3)大伴旅人の今日性

新制十九回・院十回 岩野 圭子氏

【午後の部】*総会・公開講演会 香雪館四〇一号教室

(午後一時十五分~四時三十分)

*開会の辞

(学生委員)

*活動報告・連絡事項(学生委員・卒業生委員)

(阿蘇瑞枝先生)

(1)光源氏の原像

日本女子大学教授 後藤 祥子氏

(休憩)

(2)翻訳の舞台裏

演出家・翻訳家(新14英) 酒井 洋子氏

*閉会の辞

(学生委員)

懇親会のご案内

秋季大会終了後、生協食堂に場所を移して、先生方、在学生をまじえての楽しい交流のひとつ、懇親会を開催いたします。

会員の皆様の、多数のご出席を心からお待ち致しております。

なお、同封の葉書にて出欠をお知らせ下さい。

時・午後四時四十五分~六時十五分

場所・生協食堂(ウイミン)

会費・卒業生 三千元

在学生 千五百円

(当日、大会受付にていただきます。)

*出欠席葉書〆切り 十一月十八日(土)!!

酒井 洋子氏のご紹介

帝劇ミュージカル「回転木馬」を翻訳し、大成功裡に終了させて、今度は十二月公演「シー・ラヴズ・ミー」と話題作を次々手がけて、今やミュージカル翻訳の第一人者。

その一方、小説の訳者としても忙しい。先頃出版された『ルアン先生にはさからうな』（早川ノンフィクション文庫）の歯切れのよい訳は、荒廃した学校の情にもろい熱血女教師ルアン先生の胸のすくような活躍ぶりをいきいきと描き、好評を博している。目下その続編の翻訳中で、来年には映画も封切られるとか。ルアン先生旋風、酒井旋風が吹き荒れそう。

もう一つの大事な顔が、ニール・サイモンの戯曲の翻訳と演出家としての仕事。昭和四十三年、ニール・サイモンの「おかしな二人」の日本初公演で訳者・演出家としてデビュー以来、ニール・サイモンの戯曲の翻訳・演出にあたってきた。

この三つのライフワークを大切にしながら、もう一つ、日本女子大学英文学科非常勤講師として、後輩の指導にあたる仕事がある。超多忙な日々ではあっても、大好きな母校での講義は楽しいと言ってくださる。

女子大の学生時代、酒井さんはその行動力、英語力、明るさで、同級生、下級生のあこがれの的だったという。ESSの部長として、また恒例の英文学科シェイクスピア劇での名演

技は、今も語り草。「ベニスの商人」のシャイロックを演じて、拍手喝采を浴びる。

役者としても、演出家としても一流の酒井さんが、それだけにどんな思いをこめて、戯曲の翻訳にあたっておいでか——きっとルアン先生ばりの、明快な楽しい裏話が聞かせていただけるだろう。

日本女子大学英文学科卒業後、イースト・ウェスト・センター演劇科修士課程修了。新演劇人クラブ・マールイ同人、エキスポ・ホール・プロデューサー室などを経て現在フリーの翻訳家、演出家。

主訳書に『ニール・サイモン戯曲集』第一〜五（うち十二編）、『恋をしては失って』『悪いこと』『愛の選択』（以上早川書房）、『絵を描く女』（昌文社）などがある。

主な演出作品はマールイ公演の「おかしな二人」、テアトル・エコー公演の「プラザ・スイート」「ジンジャーブレッド・レディ」「サンシャイン・ボーイズ」（第十九回紀伊国屋演劇賞個人受賞）「カリフォルニア・スイート」、博品館制作「おかしな二人——女性版」、松竹「花いくさ」、現代演劇協会「綾の鼓」など。

舞台作品の翻訳には「おやすみ、母さん」、東宝ミュージカル「シカゴ」「ジョージの恋人」「王子と踊り子」「レ・ミゼラブル」など多数。

国語国文学会・卒業生の会の活動より

・八月「国語国文学会だより」No.13を、本年三月二十日卒業された新四十五回生に入会のお誘いを添えて、お送りしました。

折あるごとに卒業生の会のPRに努めておりますが、皆さまもクラスの方々によりしくご喧伝くださいますよう。

「たより」が必要でしたら、お申し越しく下さい。残部がございます。

・十月二十八日（土）、晴れ上がった日。

新妻佳珠子さん（新3）をリーダーに、第二回文学散歩（企画係）を楽しみました。総勢十八名、思いがけない東京の町の姿、旧跡に驚きの連続でした。次号に詳しく報告いたしますが、こうした企画を地道に重ねていきたいと皆で話していましたら、宮本則子さん（新17）からおたよりをいただきました。

宮本さんは弥生美術館内「立原道造の会」で、幹事として記念館設置に努力されるかたわら、機関紙「風信子通信」の編集にもたずさわっておいでとのこと。立原道造ファンの方、また弥生美術館・竹久夢二美術館をお尋ねの際には、お声をかけてみたら——と思います。卒業生の会でも弥生近辺美術館めぐりも、計画してみます。

身近な、知られていない名コースをご存じでしたら、ぜひお聞かせください。

後藤 祥子氏のご紹介

創立当時の木造校舎（本館、後に教養館とも呼ばれる。現在八十年館が建つあたり）が附属中学校の学び舎として、ここ目白にあった四十年以上も前のことである。

ある日、大きい瞳をキラキラさせたお下げ髪の新入生が入ってきた。後藤祥子さん——礼儀正しく物静かで清楚な少女は、無邪気な中学生とはどこか異質の大人びた印象で私たちの前に登場した。そして控え目であるにもかかわらず、彼女が並外れて優秀な生徒であることはたちまち明らかになった。彼女の読書感想文は常に選ばれて文集に掲載され、鋭く深い洞察や透徹した分析、加えて伸びやかで巧みな表現力は傑出して見事であった。

大学時代の目白祭に彼女は『清少納言』と題する脚本を書き、国文科の仲間の手で舞台化され好評を博した。当時としては前代未聞の男子学生の参加を許され、大いに話題を提供して意欲満々だったが、他方侃々諤々の舞台作りで止むなく彼女が演出を引き受ける羽目になったのも、今は懐かしい。

卒業の年、彼女は東大の大学院に進んだ。秋山虔教授のご指導の許、中古文学を更に研鑽し、修了後は母校の国文学科研究室に迎えられた。きめ細やかで熱心な指導は勿論、謙虚で温かな人柄を慕って多くの学生が彼女の教えを請うている。

「お宅の大学には後藤祥子さんという素晴らしい学者がおられますね」と関西大学の片桐洋一教授から、最近の学会でお誉め頂いたところなのよ、と私に話してくださったのは青木生子名誉教授である。今や学会で彼女の名前を知らぬ者はなく、彼女は「平安朝文学の第一級の研究者になりましたよ」とお嬉しそうに付け加えられた。

聡明な彼女の本質は、実は強靱な忍耐である。沢山の苦勞をやさしく、穏やかなほおえみの中に詰め込んでいる。冷静で健気な模範生を時に痛々しく、そして歯がゆくも思うのは私だけだろうか。少しは人間らしく力を抜いて楽にしたら、と立派な学者に言いたくなる。

初めて聴く彼女の「源氏物語」が待遠しい。

（新十二回 山中 裕子）

昭和三十六年、本学国文学科卒業後、東京大学大学院修士課程修了、博士課程満期退学、本学国文学科に戻り、現在に至る。

単著『袖中抄校本と研究』（笠間書院）

『源氏物語の史的空間』（東大出版会）

私家集注釈叢刊6『元輔集注釈』（日本古典文学会貴重本刊行会）

共著 岩波新古典文学大系『平安私家集』

その他で主なもの『和歌文学論集』（笠間書院）『源氏物語講座』（勉誠社）など多数。

国文科卒業生の活躍ぶり

九月十八日からスポーツニッポンで、日本女子大物語「桜楓の百人」が連載されているのをご存じですか。企画はスポーツニッポン新聞東京本社編集委員の山崎れいみさん（新5）、執筆者は山崎さん、星瑠璃子さん（新8）、志賀かう子さん（新8）の国文卒の皆さんと吉廣紀代子さん（新13社）。

十一月三日までに紹介された卒業生は四十五名、そのうち国文科卒業生は十五名。掲載順にご紹介しますと——

（敬称略・（ ）は回生）

「泥かぶら」の新制作座・真山美保（41）、前学長、私どもの会の名譽会員、国文学者・青木生子（39）、「刑事コロンボ」などテレビ映画翻訳家・額田やえ子（46）、二十一年間ボランティアで相談委員を続ける沖縄元行政相談員・宮城ふみ（29）、ドイツ政府から勲一等連邦功勞十字章を贈られた翻訳家・伊藤小枝子（42）、モダンダンスのアキコ・カンダ、元婦人公論編集長、評論家・三枝佐枝子（39）、「女人和歌大系」の編者、歌人の長沢美津（23）、テレビ「長男の嫁」シリーズで好調の脚本家・大石静（新24）、仏教を学んで三十七年の照臨院住職・近藤徹稱（42）、四十年一筋に夢を追う人形作家・芹川英子（46）、学生時代に結成

した劇団「自転車キンクリート」脚本家・飯島早苗(新36)、三島由紀夫と関わりの深かった元「新潮」編集者・小島喜久江(46)、夫婦別姓を徹底した女性問題研究者・高橋菊江(45)、和歌山県知事夫人飯谷千代(43)の皆さん。

国語国文学会で講演された方々もおられますが、まさに多士済々。国文科の人脈の華麗さに感嘆させられます。ことに戦争をはさむ世代、旧制の先輩の活躍ぶりには胸をうたれます。ちなみに、今回の大会で講演をしてくださる酒井洋子氏も、十月二十七日に登場されています。

これからまた、どんな方々の活躍ぶりが紹介されますか。完結後には、単行本として発行される予定とのことです。

恩師のご近況

*米寿を祝われた上村悦子先生

十月十一日、お元気に米寿を迎えられた上村悦子先生は、その上に慶事を重ねられました。一つは、頌寿を祝って——と四十余名の研究者が『王朝日記の新研究』を共著出版され、先生に贈呈してくださったこと。

もう一つは、足かけ十二年かけて研鑽に励まれた大著『蜻蛉日記解釈大成』の第九巻(明治書院)を発刊、完結されたことです。

蜻蛉日記についての先生のご研究は、昭和

三十八年発行『蜻蛉日記 校本・書入・諸本の研究』(古典文庫)にはじまり、昭和四十七年『蜻蛉日記の研究』(明治書院)、そして今回の『大成』の完結まで、まさに長い年月をかけてのライフワークです。

これからも、今まで発表した蜻蛉日記の研究論文を見直し、研究のやり直しをします、と先生のご熱意は変わらず盛んです。二月に受けた白内障の手術のあとが、もう少し良くなってくれると、もっと研究がはかどるのですが——と、学問の道に齢はないのよと若々しいお声の上村悦子先生です。

*ロンドンに夢はせる熊坂敦子先生

本年三月退職され、六月名誉教授になられた熊坂敦子先生は、「元気に過ごしていますので、皆さまにくれぐれもよろしく」と、重ねておっしゃりながら、ご近況をお伝えくださいました。

女子大での思い出は楽しく、懐かし、いっぱいあり過ぎて、時間をかけて整理したいし、昭和五十七年、研究員として訪れ調査したロンドンでの漱石の足跡を、もう一度見直してみたいと、「ずいぶん前のあの頃」を思い出しながら、加えて先生のご著書、2冊の漱石論の発展をと、「夢は広がりつつけているのよ」と、はずむようなお声の先生です。

*お願いとお詫び

平成八年度は回生委員、常任委員改選の年にあたります。重任も可ですし、あまり束縛のない運営です。来春ご連絡いたしますが、どうぞ、よろしくご協力をお願い申し上げます。

今回、本紙の発行がたいへん遅れました。先にはがきで大会のご案内をいたしました、申し訳ございませんでした。

ほぼ九月いっぱい夏休み、また目白祭その他取り込みもあって連絡がつきにくく、思いもしない遅れとなりました。

大会出欠席はがきは、折り返し十八日までにお送り返してください。

伝言板

本年度の会費千円未納の方は、「国語国文学会だより」(八月発行)に同封致しました払込用紙に、氏名・電話番号・回生をご記入の上、郵便局からお振込みください。

振替番号: 〇〇一九〇一六九七〇七
日本女子大学国語国文学会卒業生の会

一九九五年十一月八日

発行・日本女子大学国語国文学会

卒業生の会